

## レクチャー1

### 「呼応(一致)」とは。

「呼応(一致)」とは、主語の人称や数によって、(述語)動詞の形が変化することをいいます。

簡単な例を挙げてみましょう。以下の英文の( )ですが、どちらが正しいかわかりますか？

- ① Tom (has・have) two beautiful boys.  
トムには立派な息子が2人いる
- ② Tom and Mary (has・have) two beautiful boys.  
トムとメアリーには立派な息子が2人いる

正解は①は has、②は have です。選択の基準はそれぞれの英文の主語でした。①は Tom という単数名詞に呼応(一致)して has が正しく、②は Tom and Mary という複数を示す名詞に呼応(一致)して have が正しいわけです。

この「呼応(一致)」で、特に受験で狙われるポイントは、以下の3つです。

- ①主語は複数なのに、述語動詞は例外的に単数扱いになるもの
- ②逆に主語は単数形なのに、述語動詞が複数扱いになるもの
- ③2つの主語が接続詞で結ばれたとき、述語動詞はどちらの主語に呼応(一致)するか

ではこれらを中心に、さっそく「呼応」のポイントを整理していくことにしましょう。

## レクチャー2

### 形は複数形だが単数扱いになるもの。

複数名詞が主語の場合、原則として複数扱いですが、以下の場合には、形は複数形なのに「単数扱い」となります。したがって当然ですが、動詞には3

単現の s がついたり、be動詞の場合は is[was] となります。

(1)複数形の学科名、国名、書名等が1つのものをさす場合。

(ex) Mathematics **is** the only subject she is not good at.  
数学は彼女が苦手とする唯一の教科だ [学科名]

The United States **exports** grain to Japan.  
アメリカ合衆国は日本に穀物を輸出している [国名]

The New York Times **is** sold at the news stand in the station.  
『ニューヨークタイムズ』紙は駅の売店で売っている [新聞名]

「学問・学科名」には以下のようなものがあります。

athletics	:「体育理論」「運動競技」	gymnastics	:「体育」	phonemics	:「音素論」
economics	:「経済学」	harmonics	:「和声学」	physics	:「物理学」
electronics	:「電子工学」	linguistics	:「言語学」	politics	:「政治学」
esthetics	:「美学」	mechanics	:「機械力学」	statics	:「静力学」
ethics	:「倫理学」	metaphysics	:「形而上学」	statistics	:「統計学」
dietetics	:「栄養学」	optics	:「光学」	tactics	:「用兵学」
dynamics	:「力学」	acoustics	:「音響学」	※acousticsが「(行動などの)音響効果」という意味になる場合には複数扱い。	

(2)時間、距離、金額、重量等を1つの(まとまった)単位としてみる場合。

(ex) Ten months **is** too short to learn a foreign language.  
外国語を学ぶのに10ヶ月は短すぎる

20 dollars **is** enough money to buy the CD.  
20ドルはそのCDを買うのに十分なお金だ

以下の英文では「時間(5年)」を1つの単位(まとまり)として見ているわけではないので、Five years は複数扱いとなっています。

(ex) Five years **have** passed since my father died.  
父が死んで5年になる

### レクチャー3

#### 部分を表す主語の呼応(一致)。

以下のような「部分を表す主語」の場合、「A」の部分にくる名詞が複数形であればその主語は「複数扱い」、逆に「A」の部分にくる名詞が単数形であればその主語は「単数扱い」となります。

most of A 「Aの大部分」      all of A 「Aのすべて」  
half of A 「Aの半分」      two-thirds of A 「Aの3分の2」

[その他] some[any] of A, the rest of A, part of A 等

具体例を挙げてみましょう。

① Most of the students in our school go on to college.

私達の学校の生徒大部分は大学に進学する

② Most of the water flows into the sea in the end.

水の大部分は最終的には海に注ぎます

①の場合、Aにあたるのが the students と複数名詞なので、「主語＝複数」と判断され、動詞は go で受けています。

②の場合、Aにあたるのが the water と単数名詞なので「主語＝単数」と判断され、動詞は(3単現の s のついた)flows で受けています。

### レクチャー4

#### 接続詞で結ばれた2つの主語の呼応。

##### (1) A and B の呼応

主語が「A and B」という形の場合、一般的にはそれは「複数」と判断されますね。

(ex) John and I **are** brothers. ジョンと私は兄弟です

㊦ ㊧

しかし、and で結ばれた2つの主語が、以下のような場合は「単数扱い」となります。

- ①それ全体で1つのまとまったものや概念を示すとき
- ②それが同一の人（又は物）を表すとき

①の例を挙げてみましょう。

・ **curry and rice** カレーライス

(ex) Curry and rice **was** served at the dinner.

ディナーではカレーライスが出された

・ **bread and butter** バターを塗ったパン

(ex) Bread and butter **was** our usual breakfast.

バターを塗ったパンが我が家のお決まりの朝食だ

・ **needle and thread** 糸を通した針

(ex) A needle and thread **is** needed.

糸を通した針が必要だ

②の例を挙げてみましょう。

(ex) **The** statesman and philosopher **is** still staying in Japan.

政治家であり哲学者でもあるその人はまだ日本に住んでいる

上の英文の主語が「同一の人」であることを示しているヒントは、冠詞の The です。the が1つしかありません。ということは

The statesman and philosopher

で一人の人を表していることが分かるわけです。

ちなみにしたの英文の場合はどうでしょう？

(ex) **The** statesman and **the** philosopher **are** still staying in Japan.

その政治家とその哲学者はまだ日本に住んでいる

この英文の場合には the が2つありますね。ということは statesman と philosopher は別人であることが分かるのです。もちろん「主語＝複数」となり、動詞は are で受けています。

ちなみに「both A and B」が主語の場合は、常に「複数扱い」となります。

(ex) Both his wife and he are Japanese. 彼の奥さんも彼も日本人だ

## (2) A or B等の呼応。

以下の英文は意味は同じです。では( )内のどちらかが正しいか分かりますか？

① Two girls or one woman ( is・are ) required

② One woman or two girls ( is・are ) required.

正解は①は is、②は are です。

実は「A or B」が全体で主語になった場合、動詞は全て「B」に呼応(一致)するというルールがあるのです。したがって①は「B = one woman」なので is、②は「B = two girls」なので are が正解になるというわけです。

このように、それが主語になったとき、動詞が「B」に呼応(一致)する表現として以下のようなものがあります。

- |                         |             |
|-------------------------|-------------|
| ① either A or B         | AかBどちらか一方   |
| ② neither A nor B       | AもBもどちらも～ない |
| ③ not A but B           | AではなくてB     |
| ④ not only A but also B | AだけでなくBもまた  |
| =B as well as A         |             |

要注意は as well as で、not only～ と意味は同じなのに「A」と「B」の位置が逆です。

(ex) Not only he but also his sons have been satisfied.

=His sons as well as he have been satisfied.

彼だけでなく彼の息子もまた満足していた

☞これらは厳密に定義するなら、「動詞に近いほうの名詞」に合わせるのである。したがって疑問文では「A」に合わせることになる。

(ex) Is either she or you right?

彼女と君のどちらが正しいのだ

## レクチャー5

### 不定代名詞の呼応。

#### (1) each, every+単数名詞, either, neither。

以下の英文、( )内のどちらかが正しいか分かりますか？

Each ( was・were ) dressed neatly.

それぞれ(の人)はきちんとした身なりをしていた

正解は was です。each が代名詞として用いられたときは(意味的には複数を表すのだが)「単数扱い」となります。これは every+単数名詞、either neither も同じです。

頭文字がすべて「e」なので覚えやすいですね(neitherとeitherの否定と考えれば)。またこれらが形容詞的に使われる場合、直後の名詞は単数名詞となります。

(ex) Each boy and each girl has the license.

男子も女子も各自免許証を持っている

Either plan is possible to realize どちらの計画も実現可能です

Neither story is interesting. どちらの話もおもしろくない

Every boy and girl in the school is well educated.

その学校の生徒たちはしつけがよく行き届いている

☞上例のように、every(each)のかかる名詞がandで結ばれていたとしても、単数扱いに変わりはない。

上例でも each、either、neither、every が修飾しているそれぞれの名詞 (boy, girl, plan, story)は、全て単数名詞ですね。

そして上例でわかるように、これも「単数扱い」となります(動詞が has、is で受けている)。

## (2) both.

both が代名詞として「両方」という意味になる場合、both は「複数扱い」です。

(ex) Both are alive. 2人とも生きている

both (of the) A と、後ろに名詞をとる場合も「A」は複数名詞が来ます。

(ex) There are some trees on both sides of the street.

通りの両側には木が植わっている

both A は each[either] A でも言い換えられますが、each[either]の場合、「A」には単数名詞が来るのでしたね。

=There are some trees on each[either] side of the street.

## (3) all.

all の場合、可算名詞も不可算名詞も表すことができるので注意が必要です。  
つまり all 主語の場合、

①allの意味するものが不可算名詞の場合は、all は「単数扱い」。

(ex) All is lost[over]. 万事休す

All is well that ends well. 終わり良ければ全てよし

All you have to do is do your best.

君は全力を出しさえすればいい

②allの意味するものが可算名詞の場合は、all は「複数扱い」。

(ex) All were quiet in the room. 全員部屋の中で静かにしていた

allが形容詞的に用いられる場合は、後ろにくる名詞次第となります。  
つまり、

①その後の名詞が複数名詞なら all+名詞は「複数扱い」。

(ex) All the students are diligent. その学生たちはみんな勤勉だ

②その後の名詞が単数名詞なら all+名詞は「単数扱い」。

(ex) All natural butter is made from cream.  
全ての天然バターはクリームから作られる

## レクチャー6

### その他の呼応。

(1) 「many a + 単数名詞」。

「many a + 単数名詞」は、「many + 複数名詞」の強調表現で、意味的には当然「複数」なのですが、(動詞直前に来る)単数名詞に引きずられて、「単数扱い」となります。例文で確認してみましょう。

(ex) Many a bird is in the park. たくさんの鳥が公園にいる

もちろん上の英文は、以下のように「many + 複数名詞」を用いて表現することも可能です。

=Many birds are in the park.

(2) 「more than one + 単数名詞」。

「more than one + 単数名詞」は「いくつもの(いく人もの)～」という意味で、当然「複数」を表すのですが、これも(動詞直前に来る)単数名詞に引きずられて「単数扱い」となります。

(ex) More than one employee has been fired.  
いく人もの従業員が解雇された

(3) 「a number of A」と「the number of A」。

「a number of A」は「数多くのA」という意味で「複数扱い」になりますが、「the number of A」は「Aの数」という意味で「単数扱い」になります。

(ex) A number of people **are** fond of playing baseball.

多くの人々は野球をするのが好きだ

The number of people who smoke **has** decreased.

喫煙者の数は減少している

(4) 「a pair[set・list等] of + 複数名詞」。

「a pair[set・list等] of + 複数名詞」の場合、動詞は「a pair[set...]」に呼応(一致)し、「単数扱い」となります。

(ex) A new pair of glasses **is** worn by Mr. Brown.

ブラウンさんは新しい眼鏡をかけている wear-wore-worn:「身につける」

もちろん以下の例文の場合は、two pairs に動詞は呼応(一致)しますから(「複数扱い」となり) are になっています。

(ex) Two pairs of new socks **are** what you need.

2足の新しい靴下が君に必要なものだ

(5) 集合名詞。

集合名詞(いくつかの同種のものの集合体を指す名詞)については、以下のようなルールがあります。

① 集合名詞が1つの集合体を表す場合は「単数扱い」。

(ex) The class **is** too large to be taught by a single teacher.

そのクラスは1人の教師で教えるには大きすぎる

My family **is** a large family. うちの家族は大家族です

The audience was very large. たくさんの聴衆だった

② 個々の構成員を指す場合は「複数扱い」。 ☞こちらが頻出。

(ex) The class were divided in their opinions.

クラスは意見が分かれた

My family are all early risers. 我が家はみんな早起きです

③ 常に複数扱いにする集合名詞。 ☞太字は頻出。

(ex) police 「警察」「警官達」

clergy 「聖職者達」

cattle 「(人に飼われている)牛」

poultry 「(アヒル・鶏・七面鳥等の)家禽類」

(6) 動名詞、不定詞が主語の場合。

動名詞や不定詞が文の主語になった場合は「単数扱い」となります。

(ex) To see is to believe. 百聞は一見にしかず

Collecting stamps is my hobby. 切手集めが僕の趣味です

(7) 「There be動詞[又は一般動詞] + ㊦」。

「There be動詞[一般動詞] + ㊦」の構文は、動詞は「後続する㊦に呼応(一致)」します。つまり

① be[又は一般動詞] の後の㊦(名詞)が単数名詞なら be[又は一般動詞] は「単数扱い」

② be[又は一般動詞] の後の㊦(名詞)が単数名詞なら be[又は一般動詞] は「複数扱い」

となります。

(ex) There is a box on the table. テーブルの上に箱が1つある

上の英文でも、主語が a box なので、直前の be動詞は is になっています。

(8) 「the + 形容詞(分詞)」。

「the + 形容詞(分詞)」は「(人を表す)複数名詞化」することがあります。たとえば the rich は「豊かな人々」という意味で rich people と同じ意味になります。このような形容詞には以下のようなものがあります。

able-bodied[体の丈夫な]	brave[勇敢な]	dead[死んだ]	deaf[耳の聞こえない]
disabled[体の不自由な]	dumb[口のきけない]	elderly[年輩の]	guilty[有罪の]
homeless[家を持たない]	injured[負傷した]	innocent[無実の]	living[生きている]
old[年をとった]	poor[貧乏な]	rich[金持ちの]	sick[病気の]
unemployed[失業した]	wealthy[裕福な]	wise[賢い]	wounded[負傷した]
young[若い]等。			

したがってその場合「複数扱い」となります。

(ex) The rich often **despise** the poor.

豊かな人々はしばしば貧乏人を軽蔑する

それから the British[英国人], the Dutch[オランダ人] など、「the+国籍を表す形容詞」についても、同じように国民全体を表し、「複数扱い」となります。

(ex) The Japanese **are** said to be a diligent people.

日本人は勤勉な国民だと言われている

ただし、以下については「単数の人」「複数の人」どちらも指す可能性がある。つまり「特定の被告[故人…]」を指す場合には(単数の人を表している)、**「単数扱い」**になる。

the accused[被告]    the deceased[故人]    the pursued[追跡されている人]

(9) 関係代名詞が主語(主格)の場合。

関係代名詞が主格の場合、**動詞の人称と数は「先行詞に呼応(一致)」**します。

つまり先行詞が単数名詞なら「単数扱い」、複数名詞なら「複数扱い」と

なります。以下の例文は、波線部分が先行詞です。

(ex) Everything that **is** needed may be taken with you.

何でも必要なものは持って行ってよろしい

One of the guests who **were** present tried to talk to me.

出席していた客の一人が私に話掛けようとした

Jim is the only one of my friends that **is** talented.

ジムは私の友人のうちで才能のあるただ一人の人です

## 「呼応(一致)」の演習問題

Q : (     ) の中に入れるのに最も適当なものを選びなさい。

(1) Economics (①is ②are) one of my favorite subjects.

(2) Physics (①is ②are) an elective subject.

(3) The United States (①is ②are) much larger than our country.

(4) Two hours (①is ②are) a long time to wait for someone.

(5) 42.195km (①is ②are) a great distance.

(6) Half of the tomatoes (①is ②are) rotten.

(7) Two-fifths of the building (①was ②were) destroyed by the earthquake.

(8) Most of the workers (①was ②were) against the proposition their manager offered.

(9) He and I (①is ②are) students of this high school.

- (10) Ham and eggs (①is ②are) a familiar dish at breakfast in America.
- (11) Toast and butter with a cup of tea (①is ②are) my favorite breakfast.
- (12) All work and no play (①make ②makes) Jack a dull boy.
- (13) Both my brother and I (①was ②were) used to being scolded by father.
- (14) Either she or I (①is ②am ③are) at fault.
- (15) Neither he nor his wife (①has ②have) arrived.
- (16) Every (①student of this school is ②students of this school are) polite.
- (17) The black and white cat (①is ②are) my pet.
- (18) Not only the students but also the teacher (①was ②were) deceived.
- (19) The students as well as the teacher (①is ②are) laughing.
- (20) Many a (①man likes ②men like) to have a drink before dinner.

(21) More than one child (①was ②were) involved in the accident.

(22) A number of young girls (①was ②were) crazy about rock music.

(23) The number of children who want to play soccer (①is ②are) larger than expected.

(24) A pair of scissors (①is ②are) needed to do the work.

(25) I forget brushing my teeth this morning, so my teeth (①is ②are) dirty.

(26) My family (①is ②are) a large family.

(27) My family (①is ②are) all early risers.

(28) There (①is ②are) a large number of the unemployed in this town.

(29) The beautiful (①is ②are) no always the best wives.

(30) Nobody (①knows ②know) what will happen tomorrow.

## 【解答&解説】

(1)①

【解説】「学問名」は単数扱い。economics は「経済学」。

(2)①

【解説】「学問名」は単数扱い。physics は「物理学」。

(3)①

【解説】「国名」は単数扱い。The United States は「アメリカ合衆国」。

(4)①

【解説】two hours を1つのまとまり（単位）としてみなしているので「単数扱い」になる。

(5)①

【解説】42.195キロ を1つのまとまり（単位）としてみなしているので「単数扱い」になる。

(6)②

【解説】half of の後ろの名詞が複数名詞なので、「複数扱い」となる。

(7)①

【解説】two-fifth of の後ろの名詞が単数名詞なので「単数扱い」となる。

(8)②

【解説】most of の後ろの名詞が複数名詞なので「複数扱い」となる。

(9)②

【解説】He and I は複数を表している（「私達」つまり we で言い換えられる）ので「複数扱い」となる。

(10)①

【解説】 ham and eggs で1つのものを表しているので「単数扱い」となる。

(11)①

【解説】 toast and butter で1つのものを表しているので「単数扱い」となる。

(12)②

【解説】 all work and no play で、「勉強ばかりで遊ばないこと」という1つの概念を表しているので「単数扱い」となる。

直訳は「勉強ばかりで遊ばないことはジャックをダメな子にする」だが、これは、要するに「よく遊びよく学べ」という日本の格言と同意の諺(ことわざ)。

(13)②

【解説】 both A and B は「複数扱い」。

(14)②

【解説】 either A or B は、Bに呼応(一致)する。

(15)①

【解説】 neither A nor B も、Bに呼応(一致)する。

(16)①

【解説】 every の後には単数名詞が来る。

(17)①

【解説】 the が1つしかない点に注目する。the black and white cat で(「白と黒のブチの猫」という)一匹の猫を表している。

(18)①

【解説】 not only A but also B も、Bに呼応(一致)する。

(19)②

【解説】 A as well as B の場合は、Aに呼応(一致)する。

(20)①

【解説】 many a の後には単数名詞が来る。

(21)①

【解説】 more than one+単数名詞は「単数扱い」。

(22)②

【解説】 a number of～ は「数多くの～」という意味で「複数扱い」。

(23)①

【解説】 the number of ～ は「～の数」という意味で「単数扱い」。

(24)①

【解説】 a pair of～ は、a pair に動詞は呼応(一致)し、「単数扱い」。

(25)②

【解説】 teeth は tooth の複数形。

(26)①

【解説】 集合名詞は、それが1つの集合体を表す場合には「単数扱い」。

(27)②

【解説】 集合名詞が、その個々の構成員を指す場合には「複数扱い」。

(28)②

【解説】 「there be動詞 +㊸」構文においては、be動詞の後ろの㊸(名詞)が単数名詞であれば、be動詞は is[was] と単数扱いになり、㊸(名詞)が複数名詞であれば、be動詞は are[were]と複数扱いになる。

本問では (a large number of) the employed が㊸。「the+形容詞」は「(人を表す)複数名詞化」することがある。the employed は「失業者」という意味で、employed people と同じ。したがって複数扱いの名詞と見る。

(29)②

【解説】 the beautiful は「美しい人(女性)達」という意味で「複数扱い」。

(30)①

【解説】 nbody は「単数扱い」。